

日野川タイムライン検討会 研修会 ニュースレター

平成29年9月25日（月）鳥取県西部総合事務所（10:00～12:00）

－次第－

開会挨拶（鳥取地方気象台：米井水害対策気象官）

- ① 水防災等基礎学習（鳥取大学 梶川助教）
- ② 日野川タイムライン作成に向けて（日野川河川事務所）
- ③ 想定最大規模洪水による浸水リスクの把握（日野川河川事務所）
- ④ グループワーキング

◆ 参加機関（県、4市町村、16機関）

座長	鳥取大学地域安全工学センター	黒岩教授
副座長	鳥取大学地域安全工学センター	梶川助教

米子市 防災安全課	福祉施設事業者
米子市 維持管理課	なんぶ幸福苑
米子市 長寿社会課	ゆうゆう壱番館よなご
米子市 学校教育課	よなご太平園
米子市 水道局	GHやまもと
伯耆町 総務課	博愛会
伯耆町 地域整備課	JR西日本
伯耆町 福祉課	米子支社 安全推進室
伯耆町 教育委員会	日本交通株式会社
南部町 総務課	日の丸自動車株式会社
南部町 建設課	米子支店
南部町 健康福祉課	中国電力
日吉津村 総務課	米子営業所
日吉津村 建設産業課	米子電力センター（発電電課）
日吉津村 教育委員会	米子電力センター（土木課）
鳥取県 危機管理政策課	
鳥取県 河川課	米子ガス
鳥取県 警察本部	NTT西日本 鳥取支店
鳥取県 米子警察署	NHK 米子支局
鳥取県 黒坂警察署	日本海TV 報道制作局
鳥取県 西部広域行政管理組合消防局	山陰放送 報道部
気象庁 鳥取気象台	山陰中央TV 報道制作部
国交省 倉吉川河川事務所	中海TV
国交省 日野川河川事務所	

事務局	国交省 日野川河川事務所
聴講者	鳥取県 米子県土整備部
聴講者	国交省 倉吉川河川国道事務所、鳥取河川国道事務所

◆ 研修会の内容

① 水防災基礎学習

- ✓ 既往降雨、洪水の紹介（H27関東・東北豪雨、H29台風18号など）
- ✓ 降雨と洪水発生との関係（発生時刻・位置）
- ✓ 水位や浸水想定区域を知る方法（川の防災情報、鳥取県HP、浸水ナビ、洪水危険度など）



基礎学習の様子

② 日野川タイムライン（TL）【多機関連携型TL】作成に向けて

- ✓ TLの導入メリットや、先行事例等からTL作成の流れを把握
- ✓ 日野川におけるTL作成のポイントを共有
 - 広範囲に渡る浸水 ⇒ **的確な避難行動に向けた多様な防災活動を含む**
 - 交通途絶・ライフラインの停止 ⇒ **早期の復旧活動、社会経済被害軽減を目指す**
 - 情報途絶 ⇒ **的確な情報収集・情報発信を行うための連携を強める**

第1回検討会（次回）では内水を考慮した浸水リスクや主要施設ごとの浸水状況を提示します。

③ 想定最大規模による浸水リスクの把握

- ✓ 想定浸水深は山陰道～山陰本線で囲まれた地区、大川樋門付近、小松谷川合流点で**浸水深5m超え**
- ✓ 浸水継続時間は河川沿い、海岸沿い、大川樋門周辺で**12時間～24時間程度**（長期浸水による孤立化等のリスクは低い）
- ✓ **2階以上の浸水や家屋倒壊のリスク**が高く、立ち退き避難区域が多い
- ✓ 山陰道を除く主要交通網は一時的に浸水し、**交通機能の麻痺**が想定される

④ グループワーキング

多機関に渡る参加者で1グループを構成し、全4グループ作成
※ワーキング初回は多機関同士のコミュニケーションを目的としました。

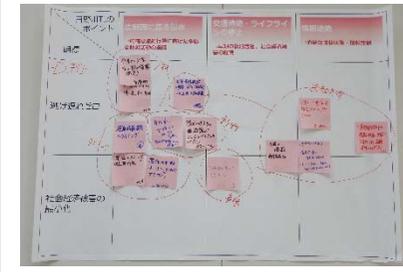
- I. 自己紹介、TL作成の目的、水害発生時のミッション、**水害発生時における行動項目に対する懸念事項**を各自発表
- II. 行動項目に対する懸念事項を、TL作成の目標（逃げ遅れゼロ、社会経済被害軽減）及び日野川TL作成のポイントごとに大判用紙に分類・整理



発表の様子

◆ 研修会ワーキングの成果（グループごとの成果とりまとめ）

⇒ 最も重視すべき水害発生時の主な行動項目と懸念事項とは？



各グループごとのワーキング成果

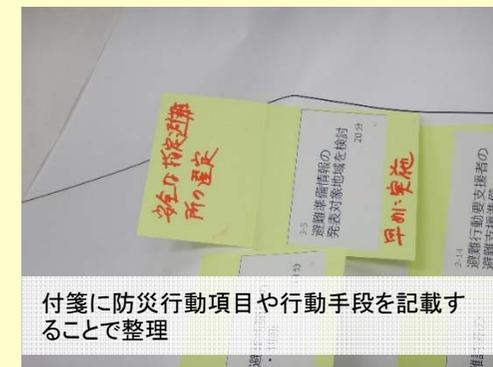
日野川TLの目標	主な行動項目
逃げ遅れ ゼロ	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 氾濫発生時（内水・外水）の安全な防災行動 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 避難や情報収集、救助等の手段を確保 (道路冠水、運行停止等の交通途絶情報や警察・消防車両等の使用可否) ✓ 要配慮者の安全な避難（避難のタイミング・避難支援） <ul style="list-style-type: none"> ✓ 福祉施設と多機関（自治体、受入施設、移送支援者等）との連携 ✓ 移送支援者・施設職員の確保
社会経済被害 の軽減	<ul style="list-style-type: none"> ✓ 大規模工場（王子製紙等）の操業への影響軽減 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事前浸水対策の支援と操業停止の的確な判断 ✓ 従業員の安全確保 ✓ ライフライン・交通施設の長期途絶を回避 <ul style="list-style-type: none"> ✓ 事前浸水対策停止の支援と操業停止や運行停止の的確な判断 ✓ 従業員の安全確保

◆ 次回 第1回タイムライン検討会

- 開催時期：11月中旬
- 検討会内容：氾濫ブロックごとのグループワーク
 - TLで想定する**気象状況（台風シナリオ）**を把握
 - **自機関に関する浸水リスク情報**を把握
 - 想定災害シナリオに対する**防災行動項目「何を」**を抽出



機関ごとのグループワーク



付箋に防災行動項目や行動手段を記載することで整理

日野川タイムライン研修会 ワーキング成果（グループワークとりまとめ）

		日野川タイムラインの着目すべきポイント						
		広範囲に渡る浸水 →的確な避難行動に向けた多様な防災活動の連携		交通途絶・ライフラインの停止 →早期の復旧活動、社会経済被害の軽減		情報途絶 →的確な情報収集・情報発信		
日野川タイムラインの目標	逃げ遅れゼロ	避難支援機関 (自治体)	要配慮者や児童生徒の安全な避難	全機関	内水氾濫時の移動手段（特に夜間）	情報発信機関 (河川事務所、自治体、気象台)	避難情報発令のタイミング（判断が困難）	
			夜間の災害対策に当たる職員の確保	消防・警察	救助・防災活動の確保（道路寸断により現場に行けるか）		映像情報の公開（積極的に公開すべき）	
			想定浸水エリアの周知（事前情報提供と住民の理解）		緊急搬送時の受け入れ先確保（病院不足の可能性はある）		大雨・洪水危険性の事前告知	
			避難所の周知（地域の避難所としての意識の共有）					水位情報・氾濫情報の発信（降雨後の水位上昇が急な河川に対しては早急を実施）
			避難所の開設とそのタイミング					TV、インターネットを使用できない住民への情報提供
			避難所が孤立した場合避難者の健康確保					メインシナリオからサブシナリオへ状況が急激に変化した場合の体制
		避難所の資機材確保（ストレッチベットなど寝たきりの避難者への対応）	情報伝達機関 (自治体、マスコミ)			取材クルーの安全を確保、二次災害防止		
		要介護者の安全な避難（車移動）とそのタイミング		警報等の空振り（警報に慣れてしまう）				
		福祉施設事業者	夜間の避難誘導対応に当たる職員の確保	情報共有機関 (全機関)	各自自治体の報道対応（正確・詳細な情報を迅速に提供）、マスコミ各社からの問い合わせ窓口の適正配置			
		全機関	工場などからの火災、有害物質の発生対策		関係機関との連携、リエゾン派遣、活動調整			
	自機関の施設の浸水予想を把握（特に自治体や消防、警察は被災により機能が麻痺する可能性がある）			要配慮者や児童生徒の安否確認（休日夜間など）				
社会経済被害の軽減	自治体	企業等の浸水防止対策支援	ライフライン（全般）	応援・復旧資機材の研修・整備 (保管品名、数量、場所等一覧表作成)	情報共有機関 (全機関)	連絡体制、手段の確保、警備(保管と一覧表等)数量		
							非常用電源の確保（施設の浸水により使用できない場合あり）	
							復旧作業の確保（緊急車両の登録と整備、道路の通行可否などを確認）	
							自機関施設に対する浸水対策などの実施	
							ライフライン（電力）	現地送電可能箇所の確認(停電箇所の縮小)
							ライフライン（ガス）	緊急停止の判断（事前に停止判断は不可）
	ライフライン（水道）	ガス工作物の破損時の対応（ガスの停止と職員の安全確保）						
断水の判断（水源地浸水時には配水池への送水が不能となり断水は避けられない）								
交通	下水施設の復旧	運休の判断とそのタイミング						